

令和7年度 「ふるさと岐阜 古地図散歩」(11月16日実施)

「木曾路名所図会を口ずさみながら

近江から美濃へ、中山道を歩く ―今須宿・関ヶ原宿 境目の宿―」 講師：草野 道雄 氏

[当日コース]

①柏原駅集合→②照手姫笠掛地蔵→③寝物語里→④車返坂→⑤金比羅権現の常夜灯→⑥問屋場→⑦妙応寺(昼食)→⑧今須一里塚・今須峠→⑨常盤御前墓・鶯滝→⑩自害峯→⑪藤古川・不破関跡→⑫不破関資料館→⑬西首塚→⑭円龍寺→⑮関ヶ原脇本陣→⑯関ヶ原駅(解散)

1. 概要(講師作成の資料より)

- ②照手姫笠掛地蔵：照手姫が、野ざらしの地蔵に自分の笠をかぶせて、夫小栗判官の病氣平癒を祈ったことから笠掛地蔵と呼ばれるようになる。
- ③寝物語里：「ここハ近江・美濃の国堺(くにざかい)なり 長久寺にあり。むかしはたけくらべといふ。」[木曾路名所図会]
- ④車返坂：「葺かへて 月こそれぬ 板庇(びさし) とく住あらせ 不破の関守」(二条良基)
- ⑤金比羅権現の常夜灯：文化5年(1808)京都の問屋河地屋が、大名の荷物を紛失し、金毘羅様にお祈りしたところ、荷物が見つかったという。
- ⑥問屋場：明治2年12月今須騒動が起こった。問屋場の中には、やりや鉄砲で争った騒動の痕跡がある。
- ⑦妙応寺：開基(鎌倉権五郎景政)・・八代長江八郎左衛門尉重景
延文5年(1360)重景は、母菩提のために堂宇を建立、母の法号を採って寺号を妙應寺とする。
- ⑧今須一里塚・今須峠：「関ヶ原まで一里。むかしは居益と書し也。此宿東の端(はずれ)に居益塔下(ゐますたふげ)という坂あり。」[木曾路名所図会]
- ⑨常盤御前墓：「・・・ここに石塔婆三基あり。其従者の塚ならんか。」[木曾路名所図会]
鶯滝：黄鳥滝(うぐいすのたき)「川上は常盤塚の東の方にながれ、それより直になかれ、鶯の滝に落る。」[木曾路名所図会]
- ⑩自害峯：将軍たちは不破宮に参向し、大友皇子の首を捧げて、天皇の宮の前に献じた。
- ⑪藤古川：関藤川(せきのふじかわ)・・「松尾村の西、不破の関の下を流れ、多良川と落会て、栗笠より勢州桑名に入る。俗にこれを藤子川といふ。
土橋かかる。」[木曾路名所図会]
不破関跡：壬申の後、大海人皇子は天武天皇となり藤古川を挟んで不破関をおく。
- ⑫不破関資料館：壬申の乱と不破関を学ぶ不破関資料館
- ⑬西首塚：「関ヶ原宿の西、往還の左にあり。(西)又若宮八幡宮の傍、越前街道にもあり。(東)慶長戦死の塚なり。」[木曾路名所図会]
- ⑭円龍寺：文政7年(1824)、尊王攘夷派の三上藤川生まれる。明治11年(1878)、明治天皇御巡幸の際の御膳水の井戸が残る
- ⑮関ヶ原脇本陣：「垂井まで一里。宿中に八幡宮の祠(やしろ)あり。此所の生土神也。此祠の側より、若狭・越前へ通る北国街道あり。」[木曾路名所図会]

≪古地図散歩の様子≫

- ③寝物語の里
- ⑧今須峠
- ⑨常盤御前墓



2. 訪れた場所 コース図

地理院地図 電子国土 WEB より (<https://maps.gsi.go.jp/#15/35.356716/136.434059/&base=std&ls=std&disp=1&vs=c1g1j0h0k0l0u0t0z0r0s0m0f1>)

